

柴田雄次 以漢 化學者、理學博士。明治十五年一月二十八日東京生れ、  
昭和五十五年一月二十八日歿（八二—一九〇）。號望岳居。藥學者柴田  
承桂は父、植物生理學者柴田桂太の弟。明治四十年東京帝國大學理科  
大學卒。大正八年同大教授、昭和二年「金屬錯鹽の分光化學的研究」  
により帝國學士院恩賜賞受賞、十七年名古屋帝大初代理學部長、二十  
四年東京都立大學初代總長、三十七年日本學士院院長、同年文化功勞  
者。また伯父の漢詩人永坂石棟、桂園派の和歌を能くした父の影響で、  
自らも詩歌を作り、米壽記念に『歌稿評稿』（昭和四十四年秋跋、無  
刊記）を出版。音楽家柴田南雄の父。

著書『無機化學』全二冊（昭和十一年九月—二十五年五月五  
日岩波書店「岩波全書」）、『中尊寺と藤原四代—中尊寺學術調査報  
告』（合著・朝日新聞社編、昭和二十五年八月二十日朝日新聞社）、  
『留學時代私談』（昭和五十七年四月—二十八日柴田南雄刊）等。

